

21) 泌尿器科

1. 診療体制と患者構成

1) 診療科長名 東原英二

2) 常勤医師数、非常勤医師数

常勤医師数：11名（教授2、准教授1、講師1、助教7）、非常勤医師数：13名

3) 指導医数、専門医・認定医数（学会名）

泌尿器科学会指導医：5名、泌尿器科学会専門医4名（常勤のみ）（日本泌尿器科学会）

泌尿器腹腔鏡技術認定医：2名（常勤のみ）（日本Endourology・ESWL学会）

日本内視鏡外科技術認定医：2名（常勤のみ）（日本内視鏡外科学会）

日本がん治療認定医機構認定医：1名（常勤のみ）（日本がん治療認定医機構）

4) 外来診療の実績

○ 専門外来の種類

1. 前立腺癌外来（腹腔鏡下手術、小線源療法、HIFU）（毎週月曜日 午後；担当医 桶川）

2. 間質性膀胱炎外来（毎週木曜日 午後；担当医 穴戸）

3. 尿失禁、女性泌尿器科外来（毎週木曜日 午後；担当医 榎本、毎週金曜日 午前；担当医 金城）

4. 尿失禁体操外来（火曜日 午前；担当医 谷口）

5. 男性更年期外来（毎週土曜日 午前；担当医 多武保）

6. ED・男性更年期外来（第2、第4金曜日 午後；担当医 太田）

7. 多発性嚢胞腎外来（毎週木曜日午前、金曜日午前；担当医 東原、奴田原）

○ 外来患者総数

外来総患者数 38,454人（救急外来含む）

紹介患者数 882件

	2004年度	2005年度	2006年度	2007年度	2008年度
外来患者数（初診）	1,684	2,238	3,476	3,550	3,743
外来患者数（のべ）	34,791	39,178	39,511	37,321	38,454

5) 入院診療体制と実績

① 主要疾患患者総数

a. 入院患者総数：1,232人

	2004年度	2005年度	2006年度	2007年度	2008年度
新規入院患者数	1,099	1,034	1,202	1,220	1,232
のべ入院患者数	8,960	8,513	9,757	10,347	10,243

b. 手術件数：899件

手術種類	術式	2004年度	2005年度	2006年度	2007年度	2008年度
体腔鏡下手術	腹腔鏡下副腎摘除術	16	11	7	15	17
	腹腔鏡下腎摘除術	19	16	22	26	31
	腹腔鏡下腎部分切除術	1	2	2	12	4
	腹腔鏡下尿管全摘術	6	5	7	11	13
	腹腔鏡下前立腺全摘術	1		14	12	13
	腹腔鏡下腎盂形成術	2	2	5	8	5
	その他腹腔鏡下手術	3	2	3	3	4
内視鏡下手術	TUR-BT	97	103	130	116	151
	TUR-P	24	18	2	3	1
	HoLEP		5	51	41	44
	PNL	20	14	17	17	30
	TUL	44	62	63	65	42
	膀胱碎石術	6	4	12	8	9
開創手術など	副甲状腺摘除術	4	3	2	3	7
	腎摘除術	8	12	12	14	13
	腎部分切除術	6	5	6	5	8
	尿管全摘術	3	4	2	3	6
	膀胱全摘 + 回腸導管造設術	14	12	17	17	14
	膀胱全摘 + 回腸新膀胱造設術	3	1	3	2	1
	膀胱全摘 + 尿管皮膚瘻造設術		1			2
	膀胱全摘 + Mainz pouch造設	1			1	
	前立腺全摘術	30	16	29	17	17
	HIFU	10	10	13	8	7
	小線源療法			13	19	17
	高位精巣摘除術	7	14	13	13	8
	RPLND	3	1	4	5	3
	ESWL	223	183	217	182	218
	麻酔下前立腺生検	4	24	43	64	52
その他	121	125	170	136	162	
合 計		676	655	879	826	899

c. 手術以外の入院症例数

- 腎盂腎炎：29
- 急性前立腺炎：14
- 精巣上体炎：9
- 他尿路感染症：19
- 膀胱出血（タンポナーゼ）：5
- 結石（ESWL）：40
- 尿路外傷：19
- 内分泌検査：28

前立腺生検：206

d. 平均在院日数：8.3日

② 死亡患者数：23

③ 主要疾患の治療成績、術後生存率

1) 腎癌 (343例 T1：240例、T2：34例、T3：63例、T4：6例)

○ 術後5年生存率 T1：91.3%、T2：86.3%、T3：67.7%、T4：0%

○ 術後10年生存率 T1：88.4%、T2：71.9%、T3：52.8%、T4：0%

2) 腎盂尿管癌 (115例 T1：38例、T2：14例、T3：51例、T4：12例)

○ 術後膀胱内再発 29例 (25%)

○ 術後5年生存率 T1：85.5%、T2：78.7%、T3：59.2%、T4：0%

3) 膀胱癌 (678例；TUR-BT症例：488例、膀胱全摘症例：190例)

a. TUR-BT症例 (488例 T1以下：479例、T2：9例)

○ 術後5年生存率 T1以下：95.5%、T2：0%

○ 術後10年生存率 T1以下：92.6%、T2：0%

b. 膀胱全摘症例 (190例 T1以下：68例、T2：51例、T3：42例、T4：29例)

○ 術後5年生存率 T1以下：93.2%、T2：71.6%、T3：48.4%、T4：9.8%

○ 術後10年生存率 T1以下：66.0%、T2：60.9%、T3：41.5%、T4：0%

c. 尿路変更術 (189例) (1例は透析患者にて尿路変更なし)

回腸導管 126例、自排尿型代用膀胱 47例、自己導尿型代用膀胱 12例、尿管皮膚瘻 4例

4) 前立腺癌 (998例 B以下：714例、C：107例、D：135例)

○ 5年生存率 B以下98.7%、C：90.5%、D：42.5%

○ 10年生存率 B以下94.6%、C：74.8%、D：16.5%

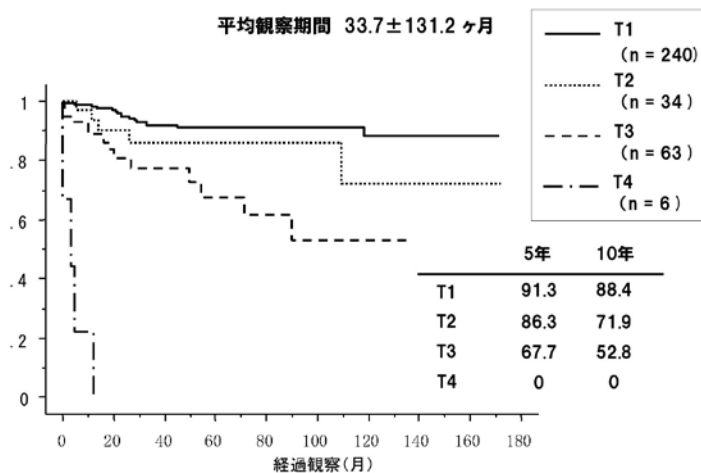
5) 精巣腫瘍 (86例 stage I：47例、Stage II：25例、Stage III：14例)

○ 術後5年生存率 stage I 100%、stage II 100%、stage III 78.6%

○ 術後10年生存率 stage I 100%、stage II 100%、stage III 78.6%

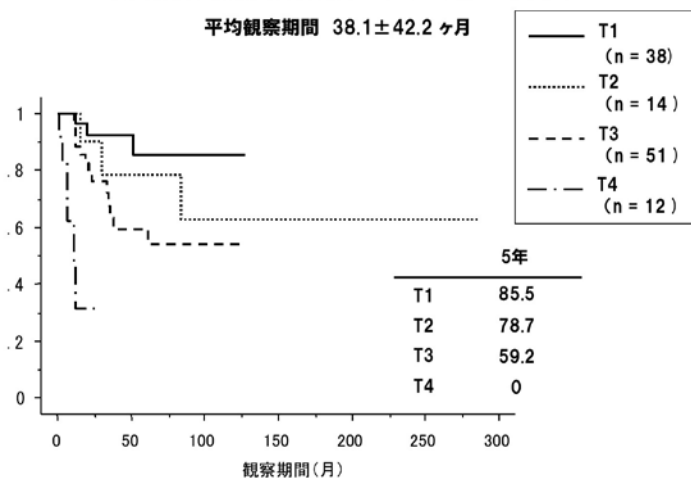
＜ 腎 癌 ＞
T分類別の疾患特異的生存率 (n = 343)

平均観察期間 33.7±131.2ヶ月



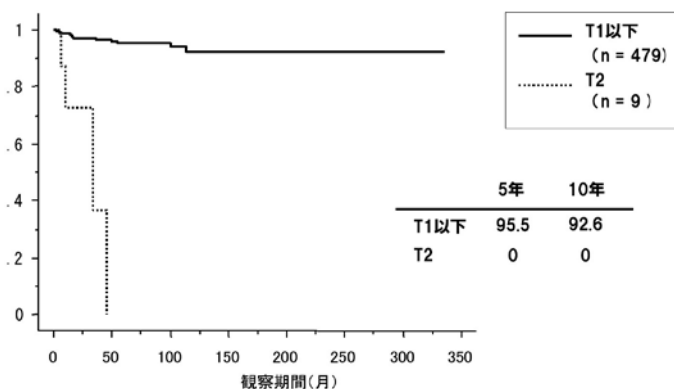
< 腎盂尿管癌 >
T分類別の疾患特異的生存率 (n = 115)

平均観察期間 38.1±42.2 ヶ月



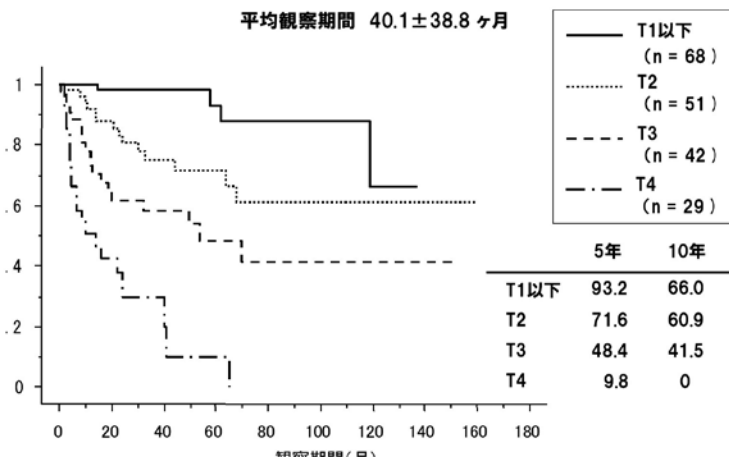
< 膀胱癌 (TUR-BT症例)>
T分類別の疾患特異的生存率 (n = 488)

平均観察期間 50.8±47.4 ヶ月



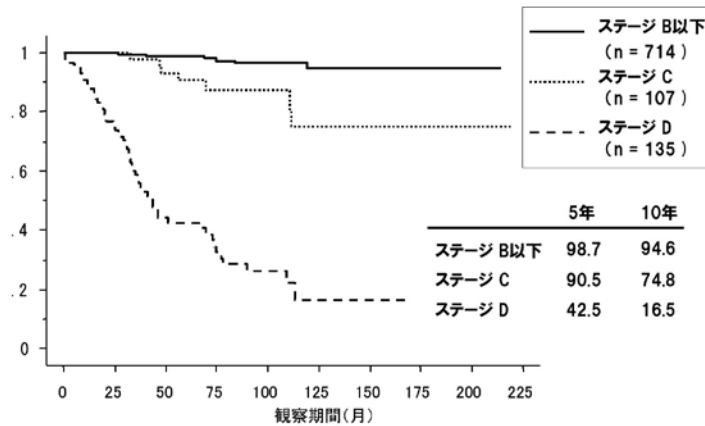
< 膀胱癌 (膀胱全摘症例)>
T分類別の疾患特異的生存率 (n = 190)

平均観察期間 40.1±38.8 ヶ月



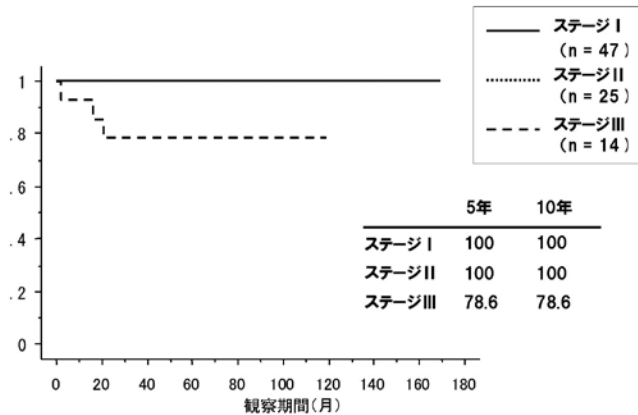
< 前立腺癌 >
ステージ別の疾患特異的生存率 (n = 998)

平均観察期間 54.5±42.7 ヶ月



< 精巣腫瘍 >
ステージ別の疾患特異的生存率 (n = 86)

平均観察期間 35.4±43.0 ヶ月



④ 剖検数：0

2. 先進的医療への取り組み (2008年度まで)

① 前立腺肥大症の治療

従来の経尿道的前立腺切除術より出血が少なく、身体の負担が軽く、術後入院日数が短い。経尿道的レーザー前立腺核出術 (HoLEP) を積極的に実施している。

HoLEP 141例

② 前立腺癌の治療

腹腔鏡下手術、小線源療法、高密度焦点式超音波治療(HIFU)、強度変調放射線治療(IMRT)などの先進的治療を行っている。

腹腔鏡下前立腺全摘術 50例

小線源療法 49例

HIFU 55例

IMRT 73例

3. 低侵襲医療の施行項目と施行例数（2008年度まで）

① 腹腔鏡下手術

副腎腫瘍や腎腫瘍、上部尿路上皮癌、腎盂尿管移行部狭窄症、精索静脈瘤、嚢胞性腎疾患（主に、多発性嚢胞腎）に対して、低侵襲医療として腹腔鏡下手術を行っている。

腹腔鏡下副腎摘除術	119例
腹腔鏡下腎摘除術	162例
腹腔鏡下腎部分切除術	30例
腹腔鏡下腎尿管全摘除術	56例
腹腔鏡下腎盂形成術	45例
腹腔鏡下内精巣静脈結紮術	34例
腹腔鏡下腎嚢胞切除縮小術	19例

② 尿路結石に対する治療

侵襲の少ない体外衝撃波碎石術あるいは内視鏡手術を行っている。

体外衝撃波碎石術（ESWL）	3,169例
経皮的腎碎石術（PNL）	194例
経尿道的尿管碎石術（TUL）	579例
経尿道的膀胱碎石術	123例

③ 骨盤臓器脱（膀胱瘤、直腸瘤）に対する治療

平成20年度より従来の陰壁縫縮術より再発率が少ないことが期待されているメッシュ手術を行っている。

Tension-free Vaginal Mesh（TVM）手術	4例
----------------------------------	----

4. 地域への貢献

- 1) 医療・介護従事者を対象とした三鷹・武蔵野・小金井排尿障害勉強会を、平成20年4月19日、9月27日に主宰して開催。
- 2) 多摩泌尿器科医会の開催を平成20年7月11日、10月3日、11月29日、平成21年1月30日、3月13日の5回主宰し、地域泌尿器科医と症例検討などを行い、連携を深める。
- 3) 多摩泌尿器科医会を通して平成20年5月23日多摩地区分子標的治療薬講演会を援助し、地域泌尿器科医と連携を深める。
- 4) 多摩泌尿器科医会を通して平成20年7月10日多摩地区ステーブラ錠発売1周年記念講演会を援助し、地域泌尿器科医と連携を深める。
- 5) 多摩泌尿器科医会を通して平成20年10月30日シアリス学術講演会を援助し、地域泌尿器科医と連携を深める。
- 6) 多摩泌尿器科医会を通して平成20年11月14日腎癌学術講演会を援助し、地域泌尿器科医と連携を深める。
- 7) 多摩泌尿器科医会を通して平成20年6月14日立川市・東大和市前立腺がん市民公開講座を援助。
- 8) 平成20年9月20日に第73回日本泌尿器科学会東部総会の市民公開講座「前立腺がん－検診と治療」を企画開催した。